## 特許協力条約

РСТ

特許性に関する国際予備報告(特許協力条約第二章)

(法第12条、法施行規則第56条) [PCT36条及びPCT規則70]

出願人又は代理人 の背類記号 905002	今後の手続きについては、様式PCT/	IPEA/416を参照すること。
国際出願番号 PCT/JP2005/001743	国際出願日 (日. 月. 年) 07. 02. 2005	優先日 (日.月.年) 24.03.2004
国際特許分類(IPC)Int.Cl. <sup>7</sup> C(	09C1/62, 3/10, C09D11,	/02,4/02,7/12
出願人 (氏名又は名称)	東洋アルミニウム株式会社	

		·
		`35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。 P C T 36 条)の規定に従い送付する。
2. この国際予備	備審査報告	fは、この表紙を含めて全部で3 ページからなる。
Annous		る物件も添付されている。 第で 1 ページである。
		この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範 は図面の用紙(PCT規則 70. 16 及び実施細則第 607 号参照)
		及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの 査機関が認定した差替え用紙
b. 厂 電子	媒体は全部	Rで (電子媒体の種類、数を示す)。
		5補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテー (実施細則第 802 号参照)
4. この国際予	<b>着審査報告</b>	行は、次の内容を含む。
7	第I欄	国際予備審査報告の基礎
r	第Ⅱ欄	
	第Ⅲ欄	新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
	第IV概	発明の単一性の欠如
7	第V欄	PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付
***		けるための文献及び説明
		ある種の引用文献
	第VII欄	国際出願の不備
	第VII棡	国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 19.07.2005	国際予備審査報告を作成した日 11.08.2005
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915	特許庁審査官(権限のある職員) 山田 泰之
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	電話番号 03-3581-1101 内線 3443

第I欄	報告の基礎			
1. この	D国際予備審査報告は、下記に示す場合をB	余くほか	、国際出願の言語を基礎	とした。
F	この報告は、 語による翻 それは、次の目的で提出された翻訳文の哲 PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際 PCT規則12.4にいう国際公開 PCT規則55.2又は55.3にいう国際予	語であ 祭調査		
	)報告は下記の出願書類を基礎とした。( 上用紙は、この報告において「出願時」とし			
Г	出願時の国際出願書類			
S	明細書 第 <u>1 - 1 7</u> 第 <u> </u>	ページ、 ページ*。 ページ*。	出願時に提出されたもの、 	) 付けで国際予備審査機関が受理したもの 付けで国際予備審査機関が受理したもの
7	請求の範囲 第 <u>2</u> 第 <u>1,3-5</u>	_ 項、 _ 項*. _ 項*.	出願時に提出されたもの 、PCT19条の規定に基 、19、07、2005	) 5づき補正されたもの 付けで国際予備審査機関が受理したもの
r	図面			付けで国際予備審査機関が受理したもの  付けで国際予備審査機関が受理したもの 付けで国際予備審査機関が受理したもの 付けで国際予備審査機関が受理したもの
<b>-</b>	第 ページ 配列表又は関連するテーブル 配列表に関する補充欄を参照するこ		·	付けで国際予備審査機関が受理したもの
3. 「	開まの範囲     第       図面     第       配列表(具体的に記載すること)			ページ 項 ページ/図 
4.	えてされたものと認められるので、その存 「明細書 第 「 請求の範囲 第	の報告に対さ	こ孫付されかつ以下に示し されなかったものとして作 	ページ 頁 ページ/図
* 4. 1	こ該当する場合、その用紙に "superseded	″と記え	入されることがある。	

見解		
新規性(N)	請求の範囲 1-5	
	請求の範囲	無
進歩性(IS)	請求の範囲 1-5	
	請求の範囲	無
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲 1-5	
	請求の範囲	無
文献及び説明(PCT規則	70. 7)	
文献 2 : JP 2003-82	8402 A(信越化学工業株式会社)2003.09.25 290 A(日本ペイント株式会社)2003.03.19	
- 文献3:TP 2002-22	6780 A(大日本インキ株式会社)2002 08 14	
文献 3 : JP 2002-22 文献 4 : JP 2002-19	6780 A(大日本インキ株式会社)2002.08.14 6675 A(大日本インキ株式会社)2002.07.12	
文献4:JP 2002-19 文献1-4には、金原 ~150、かつ窒素原	6780 A(大日本インキ株式会社)2002.08.14 6675 A(大日本インキ株式会社)2002.07.12 属薄膜を被覆するニトロセルロースとして、 子の含有量が10.7~12.2質量%であ	平均重合度が3( るものを採用する
文献4:JP 2002-19 文献1-4には、金属	6780 A(大日本インキ株式会社)2002.08.14 6675 A(大日本インキ株式会社)2002.07.12 属薄膜を被覆するニトロセルロースとして、 子の含有量が10.7~12.2質量%であ	平均重合度が3( るものを採用する
文献4:JP 2002-19 文献1-4には、金原 ~150、かつ窒素原	6780 A(大日本インキ株式会社)2002.08.14 6675 A(大日本インキ株式会社)2002.07.12 属薄膜を被覆するニトロセルロースとして、 子の含有量が10.7~12.2質量%であ	平均重合度が3( るものを採用する
文献4:JP 2002-19 文献1-4には、金原 ~150、かつ窒素原	6780 A(大日本インキ株式会社)2002.08.14 6675 A(大日本インキ株式会社)2002.07.12 属薄膜を被覆するニトロセルロースとして、 子の含有量が10.7~12.2質量%であ	平均重合度が3( るものを採用する
文献4:JP 2002-19 文献1-4には、金原 ~150、かつ窒素原	6780 A(大日本インキ株式会社)2002.08.14 6675 A(大日本インキ株式会社)2002.07.12 属薄膜を被覆するニトロセルロースとして、 子の含有量が10.7~12.2質量%であ	平均重合度が3( るものを採用する
文献4:JP 2002-19 文献1-4には、金原 ~150、かつ窒素原	6780 A(大日本インキ株式会社)2002.08.14 6675 A(大日本インキ株式会社)2002.07.12 属薄膜を被覆するニトロセルロースとして、 子の含有量が10.7~12.2質量%であ	平均重合度が3( るものを採用する
文献4:JP 2002-19 文献1-4には、金原 ~150、かつ窒素原	6780 A(大日本インキ株式会社)2002.08.14 6675 A(大日本インキ株式会社)2002.07.12 属薄膜を被覆するニトロセルロースとして、 子の含有量が10.7~12.2質量%であ	平均重合度が3( るものを採用する
文献4:JP 2002-19 文献1-4には、金原 ~150、かつ窒素原	6780 A(大日本インキ株式会社)2002.08.14 6675 A(大日本インキ株式会社)2002.07.12 属薄膜を被覆するニトロセルロースとして、 子の含有量が10.7~12.2質量%であ	平均重合度が3( るものを採用する
文献4:JP 2002-19 文献1-4には、金原 ~150、かつ窒素原	6780 A(大日本インキ株式会社)2002.08.14 6675 A(大日本インキ株式会社)2002.07.12 属薄膜を被覆するニトロセルロースとして、 子の含有量が10.7~12.2質量%であ	平均重合度が3( るものを採用する
文献4:JP 2002-19 文献1-4には、金原 ~150、かつ窒素原	6780 A(大日本インキ株式会社)2002.08.14 6675 A(大日本インキ株式会社)2002.07.12 属薄膜を被覆するニトロセルロースとして、 子の含有量が10.7~12.2質量%であ	平均重合度が3( るものを採用する
文献4:JP 2002-19 文献1-4には、金原 ~150、かつ窒素原	6780 A(大日本インキ株式会社)2002.08.14 6675 A(大日本インキ株式会社)2002.07.12 属薄膜を被覆するニトロセルロースとして、 子の含有量が10.7~12.2質量%であ	平均重合度が3( るものを採用する
文献4:JP 2002-19 文献1-4には、金原 ~150、かつ窒素原	6780 A(大日本インキ株式会社)2002.08.14 6675 A(大日本インキ株式会社)2002.07.12 属薄膜を被覆するニトロセルロースとして、 子の含有量が10.7~12.2質量%であ	平均重合度が3( るものを採用する
文献4:JP 2002-19 文献1-4には、金原 ~150、かつ窒素原	6780 A(大日本インキ株式会社)2002.08.14 6675 A(大日本インキ株式会社)2002.07.12 属薄膜を被覆するニトロセルロースとして、 子の含有量が10.7~12.2質量%であ	平均重合度が3(るものを採用する)
文献4:JP 2002-19 文献1-4には、金原 ~150、かつ窒素原	6780 A(大日本インキ株式会社)2002.08.14 6675 A(大日本インキ株式会社)2002.07.12 属薄膜を被覆するニトロセルロースとして、 子の含有量が10.7~12.2質量%であ	平均重合度が3(
文献4:JP 2002-19 文献1-4には、金原 ~150、かつ窒素原	6780 A(大日本インキ株式会社)2002.08.14 6675 A(大日本インキ株式会社)2002.07.12 属薄膜を被覆するニトロセルロースとして、 子の含有量が10.7~12.2質量%であ	平均重合度が3(るものを採用する

## 請求の範囲

- [1] (補正後) 金属フレークとニトロセルロースとを含有し、前記ニトロセルロースの平均重合度が30~150の範囲内で、前記ニトロセルロース中の窒素原子の含有量が10.7~12.2質量%の範囲内であり、かつ、前記金属フレーク100質量部に対し前記ニトロセルロースが0.1~12質量部の範囲内で含有されるメタリック顔料組成物。
- [2] 前記金属フレークの表面がりん化合物で表面被覆されてなる、請求項1に記載のメタリック顔料組成物。
- [3] (補正後) 前記ニトロセルロースを溶解させるための希釈剤が、アクリル酸-2ーヒ ドロキシー3ーフェニルオキシプロピルである、請求項1または2に記載のメタリック顔 料組成物。
- [4] (補正後) 請求項1~3のいずれかに記載のメタリック顔料組成物を用いたUVメタリックインク組成物。
- [5] (追加) 請求項1~3のいずれかに記載のメタリック顔料組成物を用いたUVメタリック塗料組成物。